



令和5年2月定例仙台市社会教育委員の会議 会議録

- 1 開催日 令和5年2月3日(金)
- 2 開会及び
閉会の時刻 午前10時00分開会 午前11時40分閉会
- 3 開催場所 仙台市役所教育局第1会議室
- 4 出席委員氏名 阿部哲也委員、安藤直美委員、石垣恵委員、泉山靖人委員、
亀井あかね委員、齋藤愛委員、高城みさ委員、中山慎也委員、
朴賢淑委員、広瀬剛史委員、松本大委員、若生彩委員(12名出席)
- 5 事務局職員 武者生涯学習支援センター長、田村生涯学習課長、
勢藤生涯学習課主幹、古谷生涯学習課生涯学習係長、
谷口生涯学習課施設係長、須藤生涯学習課企画係長、
生涯学習支援センター事業係 細貝主査
生涯学習課生涯学習係 佐々木主査
- 6 会議の次第
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶 松本委員長
 - (3) 協議事項
 - ① 調査報告
 - ② 提言内容への意見交換について
 - ③ その他
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 7 会議の概要
 - (1) 協議事項
 - ① 調査報告
 - 12月と1月に行われた「子育てグループ」の2つの調査について、グループ分けは資料2、調査先名称・概要・調査日時は資料3、調査項目は資料4-1のとおり。
 - 調査実施順に代表委員より報告がなされた。
 - 報告内容は以下のとおり。
 - 【1】生出小・中学校運営協議会(コミュニティ・スクール)
報告：齋藤委員
 - ・仙台市において、すべての市立学校(園)でコミュニティ・スクールの導入を目指すことを決定したことを受け、令和2年12月から活動を開始。

- ・学校運営協議会は年6回開催。『熟議（熟慮と議論）』と呼ばれる話し合いの場を設定し、委員だけでなく、多くの方の意見を取り入れている。また報告書を作成し、配布、またホームページへの掲載も行っている。
- ・後継者不足の問題はあるが、生出を愛する心が住民に根付いており、携わる方達自らが《楽しむ》ことを大切に活動している。イベントに参加しやすい雰囲気づくりを心掛け、次へとつながる仕掛けづくりをしている。
- ・学校、家庭、地域の三者が協働体制をつくり、子育ての環境整備に取り組んでいる。
- ・仙台市全体として市民センター及び嘱託社会教育主事が、より一層地域の中心的機能、役割を担って欲しいとの声があった。

【2】子育て支援クラブきしゃぼっぽ

報告：阿部委員

- ・『仙台市地域子育て支援クラブ等活動補助金』を受け、東長町児童館で月2回活動。
- ・地域に住む人々が年齢問わず集まれる場所、地域をつなぐことができる場所づくりを目指している。
- ・活動が負担にならないようにしながら、メンバー各々の積極性や主体性を育むのが課題。
- ・保護者の就労の有無や子どもの年齢に関わらず、気軽に利用できる一時預かりのサポート体制が充実すると、子育てに関わる人々が行動を起こしやすくなるのではないかと、という声があった。

② 提言内容への意見交換について

○各委員へ事前に照会した『提言内容への提案』について、グループ毎に意見交換を行った。

○意見交換の内容は以下のとおり

【子育てグループ】

- ・世代や所属を超えた《つながり》を作ることが大事。また、活動の中心となる人材やコーディネートする人材の育成が必要。
- ・地域の住民同士が知り合い、交流する機会を創出していくことも《持続可能な地域づくり》につながっていくのではないかと。また、データベース等を作り、人材や団体を知る機会を増やすことも大切。

【文化グループ】

- ・活動場所となる施設を使いやすく整備して欲しいとの声が多かった。
- ・安定的な活動を維持できるような助成金の新設を検討しても良いのではないかと。また、申請手続きをサポートする体制も整備していく必要があるのではないかと。
- ・各団体の活動をデータベース化し、それらを伝えていく人材も必要ではないかと。
- ・伝統文化を披露する機会の提供とともに、その地域に都心部の潜在需要がある人が見に来てくれる仕掛けづくりを行い、人材を発掘することが重要ではないかと。

○意見交換の内容を受け、述べられた質問・意見は以下のとおり

- ・コミュニティ・スクールの導入により、地域の中で新たなまとまりがつけられた事例はあるか。
→これからではないか、と感じている。コミュニティ・スクールの中に、地域の活性化に繋がるきっかけづくりをする存在が必要になってくると考えている。
- ・市民センターや嘱託社会教育主事は、助成金申請に関して対応はできるのか。相談できる身近な存在になり得るのではないか。
→現在、市民センターの機能の中に具体的にはなく、嘱託社会教育主事についても助成金申請等の補助業務は担っていない状況。市民センターでは助成金に限ったことではなく、相談内容に適した行政機関・専門機関を紹介することに個別対応している状況である。また嘱託社会教育主事は地域をつなぐ、ファシリテーターとしての役割を重要視し活動している。
- ・『仙台市市民活動サポートセンター』は様々な市民活動のサポート機能があるが、存在があまり知られていないと感じる。
- ・紙媒体だけでなく、SNS等の利用も含めた周知方法へ移行していくことが必要ではないか。
- ・地域で文化的な活動をする団体は、市街地ではなく、身近な場所に相談窓口を求めているのではないか。

③その他

○事務局より、今後の進め方について説明がなされた。

8 その他

○特になし

「仙台市社会教育委員の会議実施要領」第4条及び第5条に基づき会議録を作成し、同要領第6条に基づき委員長及び会議録署名人が署名押印する。

令和 5 年 3 月 17 日

委員長

松本 大

会議録署名人

齋藤 愛